

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都四条烏丸北館計画	階数	地上10F
建設地	京都市中京区油小路通四条上る藤本町561番地1	構造	S造
用途地域	商業地域,防火地域,近景デザイン保全区域	平均居住人員	178 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年7月1日
敷地面積	333.55 m ²	作成者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 代表取締役 藤原 寛史
建築面積	265.82 m ²	確認日	2019年7月1日
延床面積	2,430.06 m ²	確認者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 代表取締役 藤原 寛史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 C (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算 ☆☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記②以外の 86%
④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
耐用年数の高い建材の使用や、節水型機器の採用は資源の有効利用になり、共用部や客室の十分な窓面積は効率的な日光利用となり、自然換気機能も十分で、利用者の快適な環境を作っている。また、格子ルーバーの採用では京都の景観にも配慮した設計となっている。	特に無し
Q1 室内環境 透光率 4.15% 遮音性の高い建具を使用	Q3 室外環境(敷地内) 格子ルーバーの採用により、日光を利用かつ景観の配慮している
LR1 エネルギー BPI=0.82 BEI=0.83	LR3 敷地外環境 ライフサイクル排出率86%
Q2 サービス性能 耐用年数の高い部材を採用している	
LR2 資源・マテリアル 節水コマ・節水型便器の採用により、水資源の保護に配慮している	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される